

意見交換会実施報告書

【2班】

開催団体	川内原発建設反対連絡協議会			参加人員	19人	
開催日時	令和6年 8月 8日(木) 14:00 ~ 15:30					
開催場所	SS プラザ					
出席議員 (担当)	議員名	出欠	担当	議員名	出欠	担当
	阿久根 憲造	○	司会・進行	中島 由美子	○	
	犬井 美香	○	写真記録	下園 政喜	○	
	瀬尾 和敬	○		帯田 裕達	○	
	井上 勝博	○		落口 久光	○	記録・報告書作成
	川添 公貴	○				
意見交換の内容 (凡例 ◆団体の意見 ◇議員の意見)						
(テーマ)						
・能登半島地震を受けて原発立地市としての避難計画について						
・20年運転延長容認の安全性への不安と経済効果について						
・使用済み核燃料が増え続けることについて						
(趣旨)						
・複合災害の場合、道路の混雑状況を考慮する計画へ。地震・火山等の不安はぬぐえない。						
・安定ヨウ素剤の配布について改善が望ましいのでは。						
・経済効果があると言ってきたが現実的には人口減である。実態をどう考えるか。						
・六ヶ所村(の再処理工場)は破綻しているが、使用済み核燃料の放射能について、どの程度のリスクを感じているか。						
(意見交換会内容) ◆: 団体の意見 ◇: 議員の意見						
『能登半島地震を受けて原発立地市としての避難計画について』						
◆ 珠洲市に原発をつくろうという考えがあって、住民の反対とか、いろんな事情で、結局、珠洲市には原発は作れなかった。ところが、今度のこんな被災をするような事が起きて、住民の方は、本当に原発がなくてよかったなあと、私もそう思う。皆さん方はどう思われるのでしょうか。						
◆ 家は倒壊し、そして、道路が遮断されて、もしこれが川内で起こったら、もう屋内退避もできない、避難もできないという感じだと思うのですが、更にそれを強く感じているところです。そういうところをどう考えていらっしゃるのかを聞きたいと思います。						
◇ 珠洲市、たしか2か所、原発の立地予定地があったと思います。建設は見送るという、もうひとつの志賀町は珠洲市と立地を争った自治体だったと聞いています。						
◇ 薩摩川内市の西部地震のときにも、久見崎の岩盤が厚いところは揺れが少なかったと思います。原子力発電所内では非常に小さい揺れだったというような、結果も出ているということから、このあたりでも、実際本当にそうなのかどうなのかっていうのは簡単には、結論が出せる問題ではないと思っています。停止中の原子力発電所では、重大事故は、地震では起こらなかったということも言えるのではないかなと私は思っています。						
◇ 避難道路についてですけれども、皆様方がおっしゃるように、大変な地震で、志賀町も道路がかなり寸断されて、避難どころではなかったという事は受け止めています。川内で起こっ						

たときも、ひょっとしたら、街は大変なことになっているのに、久見崎のあたりだけは大丈夫なんじゃないかなという事が起こるかもしれません。原子力発電所が影響を受けるような大きな地震があったときには、川内の街は相当大変なことになってしまうようなレベルの災害ではないかと思います。逆にそういう事象は起こり得ないのではないかなと思いますが、（この辺は実際に経験しないと）何とも言えない事だと思います。

- ◆ 原発の避難訓練の在り方、変だなあとと思います。なぜ2月だけなのか？なぜ夏場やらないのか、更に、なぜ夜やらないのか。昼ばかりでしょう。地震や、火山の噴火、台風や、いろいろな災害を想定して、なぜやらないのか。そうでないと実効性のない避難訓練だと言われて当たり前だと思います。絵にかいた餅と言われても当然だと思います。原発を推進するのであれば、これをやってほしい、やってから議論しましょうと思います。
- ◆ 避難するときに、（避難方向が）一方向ですが、風向きはひとつなのでしょうか。
- ◆ （被ばく線量にしても）なぜ福島は20ミリシーベルトなのか。原発がある薩摩川内の市民として、これは納得できない。1ミリシーベルトにすべきではないかと思います。
- ◆ 火山の爆発と断層帯による地震も（懸念されます）。160km以内に39の火山、5つのカルデラがあります。3万年前の始良カルデラの噴火では、どろどろの火砕流が久見崎を襲ったと言われています。始良カルデラですよ。どろどろの火砕流。こういうことを本当に考えたら、これはもう国の、調査部会で言っていますよね。確率の高い地震予測はできないのが実情だと言っていますから、現在の知識では、地震は予知できない。どこで起きるか、いつ起きるか分からないということです。そうだったらどうしますか。
- ◆ 鹿児島県の原子力防災のしおりがあるのですが、私たちも、ちゃんと自治会から配られてきています。私は、こういう運動をしている関係上、ちゃんと保管しているのですが、御近所の方は、あれ、どこにあったかなという感じです。皆さんの自治会ではどう活用されていますか？
- ◇ 原子力防災のそういうしおりを（自治会で）活用したことはないです。ただ、市からは防災マップというものも配布されていますので、その防災マップをもとにして、原子力防災について、避難する場所などの確認はきちんとしてはいます。ただ今言われたように、やはりそういうしおりの活用含め、そのようなことも周知しながら、活用していけたらというふうには今回感じたところです。
- ◇ まず避難訓練について疑問があったのですが、そのような避難訓練をすべきだろうと思います。おっしゃるように、いつ何時何が起こってもいいように、昼間だけやるのはおかしいというのも分かります。ただし、行政機関の対応としては、そういう時間帯でしかできないだろうと思います。そこは御理解いただけたところかと思いますが。公務員ですので、その時間帯に合わせてやるという事になるのですが、今後、夏場、冬場、それから梅雨どき等を考えた訓練も、やはり提案はしていくべきだろうと思います。それはもう当然あってしかるべきことだと思います。
- ◇ カルデラ（火山）について疑問との意見がありました。始良カルデラが仮に噴火したとき、爆発したとき、果たしてその時点で我々は生きているかという問題もあります。原発より先に、鹿児島市内では全部即死だと思います。火山活動があったときに、原発としては、被害をどのように抑えるかという観点に着目すべきだろうと思います。それに対して仮に爆発したことを想定して、原子力発電所は、防護設備を設置しているのです。ある程度、火山灰が降るが、10センチ程度降る可能性を考慮したフィルタ等を設置しています。心配されるのもわかりますが、備えるべき防護施設はしてある状態です。被ばく線量についても1ミリシーベルトで抑えるべきとのご意見もありましたが、1ミリシーベルトでおさえた状態でやることは確かにいいことかもしれませんが、実際我々がこの現代社会に生きている以上は、

常に放射線にさらされています。羽田からニューヨークに飛ぶ飛行機の放射線量は確か、0.2ミリシーベルトです。レントゲンが0.1ミリシーベルトだったかと思います。要は、放射線が出ないように、施設の安全対策を確立することが優先だろうと思います。その観点からいくと、この前の原子力規制委員会や、県の委員会でも、十分耐えうるというデータを示して、この20年延長に対してOKを出しているのであって、私は大丈夫だと思っております。

- ◆ なぜ福島では、20ミリシーベルトとなっているのかという事でそこにずっと住みなさいってことですよ。だから、それはおかしいのではないかという質問です。
- ◆ 文部科学省の地震調査研究推進本部で、川内原発周辺の地層を見て、こんなずさんな調査はないと怒っている。こんなずさんな調査はないと怒っていて、それはずっと議事録ありますから、そしてその結果でもある。でもその再調査は、事業主がすべきだと言っているのですよ。
- ◇ 今川内原子力発電所が設置されているのが、たしか久見崎層という層だと思うんですよ。6000万年から1億年前ぐらい前の断層だと思いますが、近隣（の断層）は、川内川で、すぐ周辺ではないということでもありますので、その資料を私は信じたいと思います。
- ◆ 川内川が断層だという説もあります。直下型断層、つまり活断層でない断層が幾つもあるそうです。いつどこにあるか分からない。直下型断層と言われる活断層に出てこない断層がいっぱいあると聞いています。
- ◇ だからそれをここで話をしても何も解決にもならないし、それを聞いて、原子力の特別委員会に皆さんのほうから、陳情なり上げてもらわないと、そういう専門的な議論、解決にはならないと思います。

『20年運転延長容認の安全性への不安と経済効果について』

- ◆ 未知の断層というものがいっぱいあるのだという事を言われています。原子炉が40年ということで、最終設計されているんだというこの事実をどう受け止めていくのかです。原子炉の中は、部品の交換ができないわけですね。
- ◇ 経過年数で見ていって、それを判断するのは、専門家のひとたちがするわけだから、それを信じるしか私はないと思っております。
- ◇ 20年延長ということについては、正直不安を感じました。しかし、しっかりと点検されているのだなというところは、信じていきたいと思っている。
- ◆ 避難について、避難先の方々が、川内の人に来るということも全然地元の人には知らないんです。地元の人がどこの地区の人を受け入れるとか、全く理解していないでした。市議会として、県がする仕事かもしれませんが、避難先とどういう連絡を取り合っていくのか、避難に行ったときに、どの程度してくれるのか（が不明瞭）。自衛隊を待っていても、間に合わないと思いますので、これについての要望としては、連絡を取り合って、最低限の生活ができるような（体制について）、話し合いをしていただきたい。
- ◇ これは県が、きちっと提案をするべきだろうと思います。本当は県が動かないといけないと

思います。

- ◆ 安定ヨウ素剤は24時間以内に飲まないと言われます。前回の避難訓練で、（吹上に行ったら、）安定ヨウ素剤を配るのが1番最後でした。御存じのように、できるだけ早く飲まないといけないわけですよ。
- ◇ 安定ヨウ素剤については、10年ほど前でしたか、陳情が1回上げられた記憶はありました。希望者に対しては配るべきだという事を義務づけて、今は希望者に対しては、配布はされていると思います。残念なことに（安定ヨウ素剤の配布の）要求は、数%しかおられなかったそうです。おっしゃるとおり、これはしっかりとやはり希望者には権利ですから、（配布できるように）やって行く必要があると思います。
- ◆ よく（原発のメリットについて）経済云々という理由を聞くのですが、ただ、どこの経済なのか。本市の経済なのか、九電の経済なのか、あるいはその働いている人に対する経済なのか、それが非常に曖昧と言うか（そう感じています）。
- ◇ 九州電力からこれは教えていただいたのですが、一応定期点検期間中でいくと、最大人数で、九州電力社員が約500名、協力社員として約2000人という数字をいただきました。ですので、宿泊や、お弁当も含め、そういうような、経済効果はある程度あるのではないかと認識だというふうに、九州電力からは聞いております。

『使用済み核燃料が増え続けることについて』

- ◆ もう最後になると思いますが、使用済み核燃料の問題ですが、これはもう大変な問題で、31年前の1993年に着工し、27年前の1997年完成予定の再処理工場は、全く完成の見通しはありません。プールで7年ほど冷却した使用済み燃料を特殊な金属容器に入れ、危険な地上で乾式貯蔵をするのでしょうか。そういうことになるともう、実質的に最終処分場（になるのではと）、心配です。
- ◆ 核燃料サイクルで、プルトニウム利用の主役になるはずだった高速増殖炉、トラブルが続いたもんじゅを見に行きました。一緒に行って炉の前に立って、そして何とおっしゃったか。夢の発電所、夢の発電所、どこに夢はいったんでしょう。青森県六ヶ所村で建設中の再処理工場も延期が26回繰り返され、どうもそれは完成しそうにありません。はっきり言います。完成しません。これはもう核燃料サイクルの破綻です。使用済み燃料の持って行き場がない。原発の運転をやめ、新しくつくることもやめて、全ての原発を廃炉にするべき段階に入っていると私は個人的には思います。
- ◇ まず1点目。乾式貯蔵施設については、私は推進すべきだと思っています。根拠のひとつとして、福島事故のときに、乾式のキャスクは、被害が出なかったということを聞いています。実際、乾式キャスクの中に入れて保管すると、放射性物質が出ることではない事は確認していますので、乾式貯蔵施設は今後やっていくべきだろうとは思っています。
- ◇ 乾式貯蔵施設を構内につくるのではというような陳情を出されたときも、私は乾式貯蔵施設については賛成の意を言いました。個人的には、より安全であると思います。視察に行ったのですが、来年できます。来年稼働しますと言われて、それはよかったなと思って帰ってきました。（今は完成を）待つしかないだろうと思います。だから、代替案として、乾式貯蔵施設、キャスクで保管する必要があるだろうと思います。現在は、使用済み燃料については

イギリスとフランスに搬出して（最終処理を行って）いる。だから、多分、もんじゅに関しても、その部分の作業があると思うのですが、今の世界的な流れとしては、世界の中で、いろんなそういう最終処分場とか、そういう処理をやっていきましょうという流れであるということとは聞いています。

○協議会（参加者）今のフランス、（処理しないで）返していますよ。だからこれ以上新たに（使用済み核燃料は）受けないですよ。

◇ いや、フランスに送って直して（ガラス固化体の形で）帰ってきています。

◆ 一応これ以上（最終処分依頼の数は）増えない事になっていますよ。今まであったけど、これがないわけですよ。最終処分場も、今どこも、文献調査だけで終わっている。北海道では実験は終わっているけど、北海道の条例で、最終の（使用済み）核（燃料）の持込みはしない事になっているわけですよ。『川内に置いておけばいいよね』というあたりで、私が危惧しているわけです。最終ずっとあそこに置くようになるのではないかと危惧しているということです。

※（後日確認で、現在受入れ要請をしていないだけとの事で、フランスでは今後、使用済み燃料を受け入れないという事にはなっていないとの事でした。）

◇ 個人的な意見ですが、安定的な発電をするために、乾式（処分場を）をつくって、あそこに置いてもいいとも思っています。

◆ ずっとですか。

◇ 50年、、、一定程度は保管すべきだろうという考えです。

◆ 皆さんの御意見を伺っていますと、信じたいとかですね、信じるしかないとかという言葉がありました。私は、常に疑問を持ってもらいたいというふうに思います。やっぱり皆さん、認識を整理していただいて、市民の皆さんの命を守る仕事に携わっているわけですので、やはり収集ですね、審議していただきたいと思います。